







上海圖書館藏

二番

左

神風の如やうにふりふりせつら振らるる死のやもを

右

ふやうにふりふりせつら振らるる死のやもを

左のさうらのち右の月よき乃柱入指方外

控指方

三番

左

さうらふ死のやもを死のやもを死のやもを

右

解とあつていふに振らるるやもを死のやもを

左のさうらのち右の月よき乃柱入指方外

のすうらふ死のやもを死のやもを死のやもを

よこいふに振らるるやもを死のやもを死のやもを

さうらのち右の月よき乃柱入指方外

さうらふ死のやもを死のやもを死のやもを

四番

左

さうらふ死のやもを死のやもを死のやもを

死のやも

右

梅の香も雪の香も月夜の香も
左も右もあつたき福なる右の半も
一と一歌の詞もあつたかた

六番

右

おもしろいもあつたき
左
わろくもあつたき
おもしろいもあつたき
おもしろいもあつたき

六番

右

まをりて花のいもあつたき
右
うたもあつたき
左も右もあつたき
おもしろいもあつたき
おもしろいもあつたき
おもしろいもあつたき
おもしろいもあつたき

七番

右

祿のつくは花乃のまゝと昔すむじは花二月のち月乃

右

あじせよ公のうらまひはなんあつしむねわら月のえを
まは花乃のまゝとしは花乃えをまゝい
つらむらよあつたまこわてなうらちりせして
あしき守の祿也まゝはつくもをたぐもま
かんといはうふつたすもまあは此祿
らうすつらとあひるむむいりくふい花乃也

八番

右

さわとあつた通まゝとまんまゝはく
らゆんとはなるらまぢわあは是は
あつたつとぢわすうのうらねぬるあつて
物と

右

花乃の心はあつてあつたまゝとあつたあ
あつたけらあつたの祿をまゝとあつたあ
石守といはうらあつたあつたあ

胎ふかひき

九番

右

うらひもあまのつらきものなり

右

月をこらふ根のまはれはわが心あはれなる時ゆれ

こころあはれとてしるはれ
かこころの物なり

十番

右

昔野にやうとせと見あはれなる人あまのん

右

物にやうとせと見あはれなる人あまのん

こころあはれとてしるはれ

かこころの物なり

らんたすしとてしるはれ

十一番

右

まらぬまはれなる人あまのん

右

あはれうらみとけいこくはなれりてあはれうらみとけいこくはなれりて
右字もろくはあひつらぬまじりてはなれりて
いふ詞も我も人かたはなれりてはなれりて
らまはれりてはなれりてはなれりて
千のさゆりてはなれりてはなれりて
やもあはれりて

十二番

左

とけいこくはなれりてはなれりてはなれりて

右

とけいこくはなれりてはなれりてはなれりて
左も春の争もよと艶けりてはなれりて
うらみとけいこくはなれりてはなれりて
あはれうらみとけいこくはなれりてはなれりて
あはれうらみとけいこくはなれりてはなれりて

十三番

左

あはれうらみとけいこくはなれりてはなれりて

右

あはれうらみとけいこくはなれりてはなれりて

公事此方よとにけしれはまほしきわ鴨るる海乃梅のつれ
鴨るる海乃ついでにまよふとすく及しり但
左字為よはるまといふる詞めさるたあてはれ
あう〜船とす〜

十九番

右

あ〜此はさすれとあふたに梅つらら日く〜のあ
右

ら里乃月こら秋の夕なれは門田の風はも乃とすら
左字梅つららふら〜ゆあわてさ〜花但

けあよといつら親う又人の福こふむとせれと終
あつとやとまのあゆらるるれと人ふあ
う物つれとせらとあつれとつああふあを片
かそこゆあら又右字のれこすつとさるる
〜いみ〜かつ〜又よといけし〜と〜や〜あはたの
〜あ乃らのめいあ〜と〜魚〜や

二十番

右

あつ月乃月あまの影あま〜あのかあふ麻をえ
右

廿三番

右

大由や平のふ縁ららまはらあひらりまをのこるや

右

まはらうじあまはりまはりまはらあひらりまをのこるや

左平いさく親のしあひらあひらりまをのこるや

てすうしあひらあひらりまをのこるや

廿四番

右

しあひらあひらりまをのこるや

右

まはらや平のふ縁ららまはらあひらりまをのこるや

あまらあひらりまをのこるや

うあひらりまをのこるや

廿五番

右

あまらあひらりまをのこるや

右

あまらあひらりまをのこるや

あまらあひらりまをのこるや

才八番

右

なまこころ月やいづれもあはれなるらん

右

あはれなりまのあはれなるらん

左あはれなるらん

とまろ

才九番

右

つれづれにわが心もあはれなるらん

右

沖乃煙水遊波のまゝあはれなるらん

こころよあまの神をわらわす

才十番

右

あはれなるらん

右

枝折るらん

まをみよらん

才十一番

輪と観をわすれしをなすもあらず仍程掛る

水四番

右

多葉の枝の松の葉も枝もわすれしをなすもあらず

右

海へももたらししゆり鶴のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

左寺の平野の松の葉も枝もわすれしをなすもあらず

ころねぬあるまゝんつゝ右寺のゆり鶴のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

子乃松のゆり鶴のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

よとあらずゆり鶴のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

水五番

右

くらりたる松のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

右

多葉の枝の松の葉も枝もわすれしをなすもあらず

左右共しゆり鶴のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

松のよの松の枝もわすれしをなすもあらず

右

水六番

右

あく今、神宮のわきと、名ぬれ、ふらふら、松の松也

右

さつれ、この浪も、あな、あな、と、神を、さす、み、あなれ
右、予、の、心、神、あ、く、く、と、思、感、難、作、右、予
と、神、風、久、く、も、ま、あ、行、了、海、く、く、ん、と、胸
若、乃、祖、く、く、く、く、仍、持、て、ゆ、く、く、ま、と、あ
は、予、ら、く、あ、く、く、く、く、松、よ、と、ゆ、ら、く、思、れ、
予、松、く、あ、く、く、
藤、浪、と、み、も、予、あ、い、ら、く、く、く、く、く、く、く、
あ、つ、く、く、く、く、松、の、く、く、松、く、く、

紫、わ、ま、ま、く、く、く、く、わ、ら、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、あ、く、く、く、く、の、の、く、く、あ、く、く、く、
この、通、あ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

副送二首

和、予、の、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、わ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
く、く、わ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

清書慈法なる西行を後付属す

家隆卿其後小宰相局相傳

續三十六番

宮河奇合

判者定家

于時侍從

一番

右

玉津島海人

百代の山田のくくためや秋の風志きくく秋のくく

右

三橋山老翁

かろお出てもおれりかみつりて文川いおるくくくく

左右奇義陽元佑無入幽玄坊上く風於
摸柿本之露詞見宮河く流深蒼海
之底短裏易迷淡文能及者歌仍先
為坊

二番

右

らりまはなほさすまゝに思はるゝ谷持まじりつゝふれわ

右

こぼれきよめ後ら持とめりわいふらまはれらるゝやん

右いふ思はるゝ思はるゝ谷持道入しきまはるゝ右いふ

らりらるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

あてふいふすゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

らりら思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

思はるゝ

三番

右

こぼれつゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

右

思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ思はるゝ

こゝろわゆるん

四番

右

あそびうつく谷の音すわそら想やうりてなんとすん

右

もよおともしきけは地梅つこおわとりおや高乃と

右射紅梅之隈音感黄高く妙曲左関
新語く好音訪舊巢之用居景氣唯
吳歌詞是均若歌

五番

左

まよまろふ花のこわとちやせえんつゝとせしとやれん

右

流く入と花のよれせんわそあれうまうらねんらんもる

左奇公詞にこころうくもゆる花はわをれ
よをよちりつら公しあやうやうと左のすま
れ白の控えんよ兼うし物進とらうわい乃ま
乃きしきしやんはこころとppこわ

六番

左

八番

右

おちれわかしよし世よのいほよのあはれをうけとるは

右

うたせよはとめよつと世風をうけとるは世をせしむる

右花を思ふのあはれをうけとるは世をせしむる

あはれよぬくはる人よ左あはれあはれ

とまげらんつねこし事よの世をせしむる

ふしよも世をうけとるは世をせしむる

をなといつねをうけとるは世をせしむる

九番

右

世中おちあつてはら花のよあはれをうけとるは

右

花をうけとるは世をうけとるは世をうけとるは

右寺公祖のいほをうけとるは世をうけとるは

ゆきよは氷の花のよあはれをうけとるは

左寺世中をうけとるは世をうけとるは

のうりすよあはれをうけとるは世をうけとるは

公ふくろあはれをうけとるは世をうけとるは

うららかにとある。

十四番

左

月乃さふをさふくさるや初をその初めがわき

右

も初る海を月乃さるわきを初を何れにせん

あそや浩外に月色海上に曉影又さる

と記すく約述と右浪みし月乃をといふ

ますくはくやまのそと初ん

十五番

左

世中乃の初をさるくすし月乃初を初め初らるす初

右

ら初るもさるしはな初を初と初らる初め初らる

右初みらるし月を初らるくすも初め初らる

わいそ初てくらなるしは初め初らるくす

すし世くら初月のをさるくすも初らる初め初らる

初らるくす

十六番

左

うねをよみおなわきわ解の月さうせらうに物るるる

右

とらあつひに世をいともあはれんかたらのれ解の月
月さうき世といふ予の詞よつきそ公とあはれは
よ公あつくみほし物とやうつ

十七番

左

解きねの風といふせしうらあれはうらうじらあうら

右

花の枝と露乃あつ玉あまきしめる神あつとせは

とらあつ風といふせしうらあれはうらうじらあ
くみほし物とあうらあ公は後うわ仍有腸

十八番

左

山里のあつれはあつと人といふあつあつとあつとあつと

右

小倉のあつれはあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

十九番

二十四番

右

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

右

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

二十五番

右



あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

右

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

二十六番

右

あつらひのしづかきつらきわらふとあつらひのしづかきつらき

右

とらわめは余れあましのつちを祀りてわが御代
をわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り

三十二番

右

あつち御代つちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り

右

松山乃浪あつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
左方共為舊日くは津事故不如判

三十三番

右

うねをてつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り

右

あつちを祀りてわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
左月以てつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
を志しつちを祀りてわが御代のつちを祀り
てわが御代のつちを祀りてわが御代のつちを祀り
移しつちを祀りてわが御代のつちを祀り

三十四番

右

あつちのつらき今もこのつらき人々のあはれ
あつちのつらき今もこのつらき人々のあはれ
あつちのつらき今もこのつらき人々のあはれ

あつちのつらき今もこのつらき人々のあはれ
あつちのつらき今もこのつらき人々のあはれ
あつちのつらき今もこのつらき人々のあはれ

文治五年八月日書

清平何物朝日と銘左書抄

右与社亭公考于西三年
册事与
愚思之漏脱腐毫之失
错不足为
證者乎

延寶甲寅仲夏上浣

亞槐敬书

歌合一冊

中院殿通茂卿

芳彙與疑者也

金子壹枚

九月廿日

左筆

了伴







